

第一部: ライフサイクルにおける不確実さの取り扱い

これまでの活動

SWGにて(日下、足立、糸井、久下ほか)認識論的不確定性の取り扱いについて議論を始める。

「不確かさの定量化と工学応用」と題して中村和幸先生(明治大学)に講演いただく(2015年12月)。テーマは数理モデル構築における不確実さの扱いに関する最新の動向など。

第一部では、「epistemic uncertainty」vs「aleatory uncertainty」は絶対的なものではなく、個々のモデル化における便宜的な取扱いの違いにすぎない、という理解のもと、建築物のライフサイクル全体を概観して建築活動にまつわる不確実さの扱い方を整理した以下の2題を報告する。

○糸井達哉(東京大学): 不確かさへの対処とレジリエンス概念

○久下康太郎(インターリスク総研): 建築物の損壊への対処としての損害保険会社の役割と不確実性の扱い